

# えもとの

行動する  
はつらつたる  
商工会議所

# No.86



青函トンネル開通記念博覧会

## 青函博



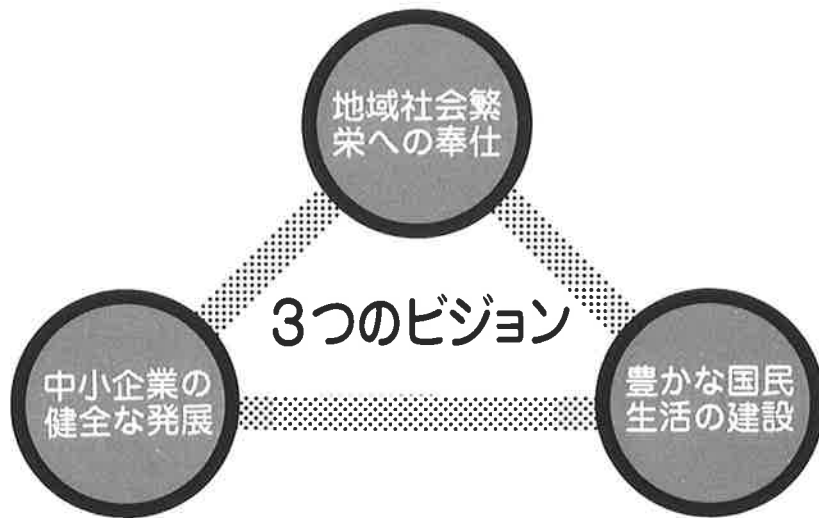
## 函館EXPO'88

- 会期/昭和63年7月9日⇒9月18日
- 会場/函館市井天町地区

### ■ 函館商工会議所報 ■

# 1988

# 5月号



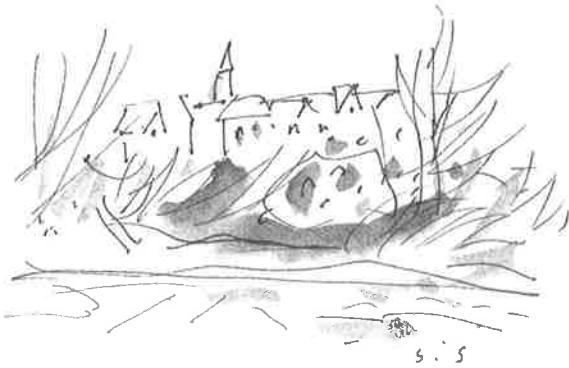
はこしんは豊かな暮らしと  
確かな未来の実現に  
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511(代)	えさん支店	亀田郡志山町字中浜115番の4	TEL84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521(代)			

視 点	1
会議所の動き	2
地域の景気	6
調査レポート	8
アドバイスコナー	12
寄 稿 文	14
Q & A	16
青函博コナー	18
ティータイム	20
ご 案 内	22



S.S

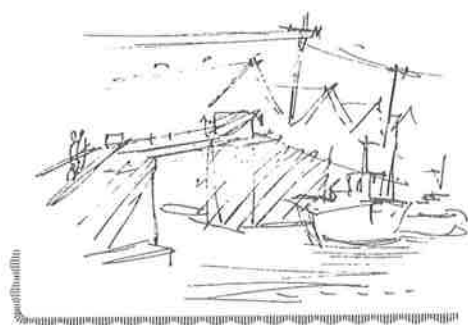
● 視 点

函館も新緑鮮やかな風薫る良い気候の季節を迎えました。今年、地域の最大のイベントである青函トンネル開通記念博覧会は、七月九日開催迄あと四十日余りに迫り、関係の方々は全力をあげてその準備を進めており、会場であるエキスパレスはもとより、市内のホテルの増改築を始め、日本最大の函館山ロープウェイ、ウォーターフロント地区の倉庫群を活用したイベントホール、レストラン、ショッピング街なども続々と竣工してきています。また、念願だったパンダの誘致も実現し、海上輸送の外輪船ともども、子供達に楽しい一時を与えてくれることでしょう。

去る三月のトンネル開通以来、人・物の交流増加には予想していた以上のものがあり、第四次全国総合開発計画で期待していたとおりの現象が見られています。

青函博の成功はまず心配ないでしょう。しかし、残された四十日間を最大限に活用し、来函される方々に十分満足していただき、良き函館の印象をもってもらうための努力が今こそ必要なことは申し上げるまでもありません。このことは将来の観光都市函館のためにも必要なことです。

市民が一人一人観光ガイドとしての心構えをもち、お客に心から暖く親切に接することが大切です。少くともこの期間はお客の利便を優先し、例えば通勤、通学のみの方には自粛するとか知人、友人などがホテルをとれなかったときは自宅に泊めてあげるとか、色々とできることはあると思いますので、ぜひ実行して戴きたいと思えます。



# 会 議 所 の 動 き

## 青函インターブロック 交流圏構想推進協議会開催

青函トンネル開通を契機に、四全総に掲げる青函インターブロック交流圏構想について協議し、その推進を図り、新たな青函経済圏の形成に寄与することを目的に、第一回「青函インターブロック交流圏構想推進協議会」が、去る四月二十六日青森グランドホテルにおいて開催されました。

当日の協議会には、本道側から我孫子副知事、函館市増田助役、本所川田会頭、そして青森側からは北村知事、工藤青森市長、沼田会頭など両地域を代表する方々のほか、経済、教育、文化等各界の代表者も出席し、新たな青函経済文化圏を形成するための諸協議がなされました。

協議の内容は、およそ次のとおりです。

北村知事・我孫子副知事の挨拶の後、この構想に関するこれまでの経過や青函地域の概況について事務局より報告がなされました。

次に本協議会の規約案を審議しましたが、今後、交流圏計画策定のために、この協議会の中に「幹事会」を設置するとともに、「交通・情報・通信」「産業・技術交

流」「学術・文化交流」の三部会を置き、それぞれの分野での専門家により作業を進めていくことを承認しました。

次いで、会長及び副会長については、両道県の知事が交互に就任することとし、本年度は開催地である北村知事が会長、横路知事が副会長と決定しました。

この計画策定に当たっての基本的考え方は次のとおりで、明年二月を目標に作業が推進される予定です。

一、交通ネットワークの拠点形成  
陸海空の機能の整備をさらに進めるとともに、特に新幹線の建設を促進し、トンネルの有効活用をはかる。

二、青函ハイテクベルトの形成  
テクノポリス地域を中心に都市間ネットワークを形成するとともに研究開発機能の集積をはかる。

三、青函圏を支える豊かな農林業の育成  
バイオテクノロジ等の新技術の導入や人材・技術力等地域資源の相互活用などにより生産性の高い豊かな農林業の育成をはかる。

四、水産・海洋関連事業等の推進  
多様な海洋開発構想を一体的に推進し沿岸域の総合的な整備をはかる。

五、広域観光ゾーンの整備・開発  
美しい自然と歴史的な文化遺産を生かし、魅力ある観光地づくりをすすめる広域観光圏の形成をはかる。

六、学術研究機能等の集積とネットワーク化  
教育研究機関の整備充実強化とともにネットワーク化を推進し学術研究機能の集積をはかる

七、情報機能集積地域の形成  
情報サービス分野での企業の集積を高め、生産、研究とともに人材育成の場を整備し各種データベース等の構築をすすめる情報ネットワークシステムの確立をはかる

八、教育・文化・スポーツ交流等の拡大  
今迄の交流内容をさらに充実するとともに新たな交流事業のほかに人材交流の活発化等をはかる

九、国際交流の推進  
国際的な交流基盤を整備するとともに交流システム、国際的イベントなどの開催を促進し世界に開かれた青函地域の形成をはかる。

十、交流拠点施設の整備  
交流イベント・会議などの開催や交流の歴史の展示、新青函圏のイメージのPRにもつながらる交流拠点施設の整備を検討する

# パンダ借り受け正式調印 ジャイアントパンダ二頭公開実現

かねてより青函博を盛りあげる目玉の一つとして中国政府に対し、「パンダを函館に」という要請をしてきましたが、去る四月二十三日、北京に於て中国動物園協会と木戸浦函館市長、本所川田会頭らによる調印式が行われ、青函博開催期間中、ジャイアントパンダ二頭の借り受けが正式に決定し、関



東以北では初めての公開が実現します。

青函博実行委員会では一昨年あたりより、中国側に対しパンダ借用について強く働きかけていましたが、その結果中国動物園協会の幹部が昨年函館を訪れ、出展会場などの調査もされていきました。

その後、木戸浦市長の訪中による強い要請などもあり、四月には中国側から調印団を北京へ招待し

たい旨の連絡が入り、これに應じて市長・会頭が訪中し決定をみたものです。

パンダの公開場所については、中国側からの意見をもとに青函博実行委員会が数か所の候補地について検討した結果、市内赤川にある笹流れダム周辺の市有地が適当であるということになりました。

またパンダの誘致と合わせて、中国国営の友誼商店から絹製品等直輸入して、できるだけ安く提供するのための中国物産展も決定しました。この物産館は、本所を窓口としてパンダ会場と青函博会場に設営される予定です。

## 国民球算大会道南予選開催

去る四月二十四日、第四十二回国民球算競技大会道南地区予選が函館並びに苫小牧の二地区で同時に開催されました。

これは五月二十九日、岡山市で開催される中央大会への代表を選出するためのもので、両会場合わせて七十三人の選手が技を競いました。

全種目で熱戦が展開され、競技の結果荣誉ある「そろばん道南一」の座は田中雅美さん（苫小牧・弥生中）が勝ちとりました。

◎国民大会予選入賞者（函館分）

二位 高橋大輔（森中）

三位 日沼祐子（中部高）

石井智昌（七飯中）

団体の部優勝 函館中部高校



また、同日には第二十回全国小学生球算競技大会も開催され、二会場で百二十四人が参加する中で、高橋愛さん（函館・鷺ノ木小）が優勝しました。

◎小学生大会入賞者（函館分）

二位 砂田有貴子（昭和小）

高屋敷清江（〃）

三位 中川由紀子（弥生小）

千葉弥佳（湯川小）

金丸昌代（上磯小）

西村季江子（鷺ノ木小）

優良賞 岩井聖美（旭岡小）

木田 玲（鷺ノ木小）

佐々木弥生（旭岡小）

土谷亜希子（駒場小）

# 二十一世紀の函館を展望

## 地域振興フォーラム開催

青函インターブロック交流圏という新たな構想が四全総で発表され、この構想実現のための協議会が発足し計画策定が進められている中で、函館地方法人会青年部、函館青年会議所、函館市、本所の四団体共催による地域振興フォーラム「明日の函館圏を考える」―青函新時代を迎えて―が、去る五月六日、若手経営者など三百五十人余りの市民が出席してホテル函館ロイヤルで開催されました。

最初に、北海道開発庁総務監理官・中田一男氏による基調講演が行われました。この中で道南地域は、北海道と本州の交通の要衝にあるため、今後は本州との人・物にかかわる交流の増大も期待できるばかりでなく、恵まれた多くの資源を生かして、テクノポリスの建設や歴史的文化遺産の活用等様々な課題を一層強く推し進めて行くことが重要との認識を示されました。次いで、函館市木戸浦市長、本所川田会頭、函館青年会議所今井理事長、函館地方法人会村上青

年部会長の四人をパネリストに、中田総務監理官をアドバイザーに、つば花びしホテル西村社長をコーディネーターに迎えて、パネルディスカッションが行われ、約二時間にわたって積極的な意見発表がありました。

各パネリストの発言内容はおよそ次のとおりです。

◎木戸浦市長は、青函トンネル開通による青函新時代の到来という地域づくりのチャンスが、今与えられ、今後時間短縮などによる地域間交流の活発化が期待できるが、そのためには、まず新幹線の整備を始めとする高速交通体系の確立が、この新時代の対応に不可欠であると結論づけました。

◎本所川田会頭は、青函両地域の産業構造のうち特に第一次産業が全国平均に比して高くなっているが、一方では、第二次産業が大幅に低くなっていることを明示した上で今後、地域で生産される資源の有効活用など地場産業の基盤強化を図ることが重要であり、本所

に於ても青函圏特別委員会（仮称）を設置し調査研究をすすめるとともに、長期的には先端技術の中核とする青函テクノベルトの建設を促進していくほか、短期的には、両地域のすぐれた自然・文化資産を生かした広域観光圏を確立するなど、地域の重要な課題についての考え方をのべました。

から主張しているコンベンションシティ構想（観光国際会議都市の形成）を推進し、特にスポーツの国際イベントの場を始めとする観光都市「函館」を確立すべきであると述べました。

◎今井理事長は、ポスト青函博への一つの対応として、JICが以前

努力の必要性を訴えました。

本所では、会員事業所の福祉向上のため、生命共済・特定退職金共済・経営者年金・新大型保障・個人年金の5つの制度を設けております。これらの制度は、安い掛金で大きな保障、給付を得られる魅力ある団体扱いの内容となっておりますので、ご検討の上社員全員のご加入をぜひおすすすめします。

◎生命共済  
安い掛金で高額な保障、しかも加入年齢に関係なく掛金は一律で、病气死亡・災害死亡はもとより傷害による入院も保障されています。

◎特定退職金共済  
従業員のための退職金共済で、優秀な従業員の優遇な退職金の

◎経営者年金  
個人事業主・法人役員が将来に備えるための制度で、役員退職金の積立として、また老後の年金として利用できます。

◎大型保障  
役員と幹部社員の万一の場合に備えるための制度で、掛金は生命共済よりも高くなりますが、保障内容はより幅広くなっています。

◎個人年金  
退職金や公的年金を補足する手段として生涯年金の性格をもち、自らの老後の生活設計は元気なうちに自ら備えるという制度です。

### 本所共済制度のご案内

採用と定着性を高めます。掛金は全額経費となります。

# 事務局日誌

4 月



**\*委員会**

5(火) テクノポリス委員会

**\*正副会頭会議**

5(火) 第51回正副会頭会議

20(火) 第52回正副会頭会議

**\*会議(道商連)**

6(水) 第8回運営委員会

11(月) 昭和62年度経営改善普及事業補助金実績報告審査会

〃 昭和62年度倒産防止特別事業補助金実績報告審査会

**\*ブロック会議**

7(木) 道南商工会議所連絡協議会

**\*審査会**

8(金) 小企業等経営改善資金の審査会

26(火) 〃 〃

**\*諸会議**

1(金) 青函博事業推進に係る事務打合せ

2(土) 所報「ともえ」No85(4月号)編集会議

〃 議員会役員会

5(火) 新幹線現函館駅乗入れ促進期成会常任幹事会

〃 婦人会定時総会・懇親会

6(水) 函館港湾振興会役員会

〃 函館港利用促進協議会幹事会

7(木) 函館販売士協会理事会

12(火) 函館繊維商組合役員会

14(木) 函館市情報公開制度懇談会

〃 (協)サンロード青森との懇談会

16(土) 箱館五稜郭祭募金委員会

18(月) 北海道新幹線建設促進道南地方期成会理事会

21(木) 日銀深井理事来函に伴う金融懇談会

〃 みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会総会

22(金) 昭和63年度汚染負荷量賦課金申告・納付説明会

25(月) 函館経営者協会役員会・定時総会

〃 湯の川温泉街診断事後報告会

〃 函館警察官友の会定時総会

〃 函館販売士協会理事会

26(火) 青函インターブロック交流圏構想推進協議会

27(水) 青函博第2回出展者会議

28(木) 青函博ワールドバザール館中国物産展展打合せ会議

30(土) 新幹線現函館駅乗入れ促進期成会常任幹事会

**\*陳情・要望**

12(火)~16(土) 青函博パンダ誘致に関する陳情

20(火)~25(月) 中国建設部とのパンダ貸借調印式

**\*講習・催物**

13(水) 経営相談

20(火) 発明相談

**\*刊行物**

20(火) 所報「ともえ」No85(4月号)発行

**\*相談・診断**

金融 126 税務 16 経理 20 経営 91

労働 159 取引 1 その他 3 計 416

**\*貸室**

本館 39 別館 1

**\*文書**

受信 250 発信 18

**\*慶弔・その他**

8(金) 青函博展示会場建設工事安全祈願祭

10(日) (社)北方歴史研究協会ピョートル・ゴロウニン氏歓迎会

11(月) 函館ソフトウェア専門学院入学式

11(月)~13(水) 議員会産業経済視察

16(土) 参議院議員田中正己氏勲一等旭日大綬章授賞記念祝賀会

〃 本所常議員鈴木武二氏キューバ・クリスタル・マウンテンゴールド勲章受賞記念パーティー

17(日) 国際ソロバチスト函館創立15周年記念式典・祝賀会

20(火) 函館山展望台・大型ロープウェイ竣工記念式典

21(水) 緑の羽根街頭募金

24(日) 第42回国民珠算競技大会道南地区予選

26(火) 丸井今井函館支店事務館新築工事竣工修祓式

27(水) 五島軒本店レストラン「雪河亭」竣工披露パーティー

30(土) 函館ヒストリープラザ落成並びに函館ビヤホール開業披露式典・祝宴

65年の伝統と信用を誇る

## 早川特許事務所

特許、実用新案、意匠、商標、権利侵害

所長 弁理士 早川 政 名

〒112 東京都文京区白山5-14-7 早川ビル 電話 (03) 946-0531 <代表>

発明相談 6月15日 水曜日午前10時から午後5時まで、函館商工会議所で相談をお受けいたします。相談は予約制になっていますので、商工会議所相談課(23-1181・内線63番)にお申し込み下さい。

ション、店舗等の民間建築（市内建築着工床面積63年1～3月前年比+29.4%）を中心に、総じて高水準の手持ち受注残を抱え引き続き活況を呈している。こうしたことから、セメントでは、高水準の生産を行っているほか、生コン等建設資材の荷動きも順調。

### (5) 漁業

噴火湾養殖ホタテ漁は、水揚げ数量、金額ともに既往ピークの前年を上回るなど好調のうちにほぼ終漁。一方、近海マス漁は、海水高温の影響等から魚群の来遊が薄く、目下のところ不漁模様。

### (6) 消費動向

3月中の市内大型小売店（10か店）の売上げは、主力春物婦人衣料品やギフト商品が好売行きを示したため、一部百貨店の増築工事による売場面積縮小にもかかわらず、全体では前年比1.4%増となった。4月入り後も婦人・紳士衣料を中心に順調に推移している模様。また、耐久消費財でも、家電販売がAV商品、電子レンジ等を中心に好調を持続しているほか、自動車販売もニューモデル車、商用車が好売行きを続けている（3月中管内新車販売台数前年比+8.9%）。一方、観光・レジャー面では、青函トンネルブーム等を映じて観光客の入り込みが好調で、ホテル、土産物店等の観光関連筋が盛況裡に推移。

## 3. 金融事情（3月中および62年度中）

○実質預金は、法人筋の期末回収資金や公金預金が積み上がったものの、前月流入をみ

た年金の流出等が響き個人預金が減少したため、前年（210億円増）を下回る月中199億円の増加。一方、貸出は、水産加工、卸売等の期末決済資金や地公体向けつなぎ資金に設備需資も加わり、月中216億円増となったが、増加幅は建設筋の工事代金流入増を映じた資金需要減から前年（225億円増）を下回った。

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、長期プライムレートの引き下げ等を映じて、月中△0.030%と引き続き低下（前月△0.030%）。

62年度中では、預金は個人預金の好伸を主因に468億円増、貸出も増加運転資金や住宅ローンを中心に250億円増とともに前年度（預金176億円増、貸出142億円増）を上回った。また、貸出約定平均金利は、年度間△0.407%（前年度△0.757%）の低下。

○銀行券は、期末決済資金や進入学関係資金等の現金需要増を中心に、月中27億円の払超（前年同22億円）。62年度中では、観光・レジャー資金の流入増等を映じて157億円の還収超（前年度同144億円）。

○財政収支は、郵貯、官庁期末手当て等が支払増となったものの、資金運用部貸付の返金や保険の受け入れ等が嵩んだため、月中23億円の受超（前年払超8億円）。62年度中では公共事業関係費や郵貯の支払増を中心に44億円の払超となったが、払超幅は民営化移行に伴う国鉄関係費の剥落から前年度（255億円）比大幅縮少。



3 月

昭和63年 4 月28日

地域の

景気

日本銀行函館支店

## 1. 概 況

○最近の管内経済動向をみると、個人消費の好調、民間設備投資の増加等から企業は増産姿勢を強めており、雇用情勢も一段と改善するなど、管内景気は順調に拡大している。

○すなわち、製造業では低操業の先が一部にみられるものの、需要の好調持続を背景に、電子部品、合板・製缶機械、水産加工等の多くの先がフル生産持続ないしは操業度を引き上げており、新鋭設備の導入、パートの採用増等を企図する先が広範化。また、非製造業でも、土木・建築筋が高水準の手持ち受注残を抱え活況を呈しているほか、百貨店売り上げ、自動車・家電販売も好調を持続しており、観光・レジャー面でも、青函トンネル開業等を映じて、盛況裡に推移。

この間、雇用情勢は、製造業からの求人増も加わり一段の改善をみている。

○金融面をみると、預金は法人・公金預金の伸びを中心に順調なほか、貸出も企業の増産運転・設備資金が増加傾向を辿っている。また、管内銀行の貸出約定平均金利は前月に引き続き低下。

## 2. 主要業種別動向

### (1) 機 械

電子部品では、輪内需の好調を背景に目一杯の生産を継続しており、さらに一段の能力増強投資による増産を企図。また、合板・製缶機械でも、高水準の受注残を抱え時間外勤務や外注の増加で対応してきたが、ここへきて新鋭機械を導入。一方、造船では、中堅筋のホタテ養殖用漁船等の受注は比較的順調。

### (2) 食 料 品

水産加工では、行楽需要期入りとあって、消費地間屋筋からの引き合いが活発化しているため、パートの採用増等により大方が操業度を引き上げている。また、乳加工品でも、飲用牛乳の消費好調等から生産水準は漸次上昇。飼料・魚油では、主力飼料は市況の軟化等を映じて荷動きがやや鈍化気味ながら、魚油輸出は堅調な海外相場を背景に順調。

### (3) その他製造業

合板では、インドネシア製品の流入増、関税引き下げ等により、市況が軟化傾向にあるものの、家具、家電等の根強い需要を背景に高水準の生産を継続。また、段ボールでも、加工食品・青果物向けを中心に生産、出荷とも堅調。一方、漁網では、イカ刺網やイワシ旋網等の更新需要の盛り上がりから、減産を幾分緩和。

### (4) 建設関係

住宅着工は貸家の落ち込みから伸びが低下しているが、建設筋では、ホテル、マン

見方をしているが、他はすべてD Iがプラスを示し業績好転が見込まれる。

【製造業】

今期比D I 33.3、前年同期比D I 14.6といずれもプラスを示している。

細業種でみると、造船業以外は総じて業績好転を予想しており、特に水産加工業、窯業・土石製品業、金属・一般機械器具業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示している。

【卸売業】

今期比D I 42.8、前年同期比D I 29.2を示し、今期比では過半数の企業が「増加」と回答している。

細業種でみると、燃料業が今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示している以外は、すべて業績好転を予想しており、特に一般機械器具業、建築材料業が増収を見込んでいる。

【小売業】

今期比D I 37.3、前年同期比D I 37.2といずれもD Iがプラスを示している。

細業種でも、総じて業績好転が予想され、特に各種商品販売業、衣服・身の回り品

販売業、食料品販売業、自動車販売業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、増収を見込んでいる。

【サービス業】

今期比D I 49.9、前年同期比D I 45.8を示し、いずれも過半数の企業が「増加」と回答している。

細業種でみると、自動車整備業はほぼ横ばい状態を予想しているが、他はすべてD Iがプラスを示し業績好転を見込んでいる。特にホテル・旅館業では「減少」と回答した企業はなく、引き続き増収傾向が見込まれる。

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とみる企業13.6%に対し「悪化」とみる企業 1.5%でD I 12.1を示しているが、「変らない」とする企業が84.9%もあり、ほぼ今期並みに推移される見通しである。

これを業種別にみると、建設業D I 3.9、製造業D I 7.3、卸売業D I 18.0、小売業D I 11.7、サービス業D I 20.8といずれもプラスを示しているが、各業種とも7割以上の企業が「変らない」としている。

統計資料

第一種函館市内大規模小売店舗売上高(10店) 昭和63年3月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	3,493,400	162.2	100.9
身の回り品	639,868	171.8	96.0
雑貨	848,750	136.6	92.4
家庭用品	845,245	153.0	106.5
食料品	1,785,503	116.0	99.2
食堂・喫茶	212,351	135.7	97.5
サービス	113,689	131.1	138.1
その他	522,147	171.7	128.6
総計	8,460,953	146.2	101.4

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパーズプラザ湯の川店の各店をいう。

業種別にD Iをみると、製造業以外はプラスを示しているが、各業種とも「変らない」とする企業が大半を占め、前期並みに推移した。

図-4 今期の資金繰り (対前年同期比)

	(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (7.8)	17.5	72.8		9.7
建設業 (15.4)	19.2	77.0		3.8
製造業 (-5.0)	8.5	78.4		13.3
卸売業 (7.6)	20.8	66.0		13.2
小売業 (20.9)	25.6	69.7		4.7
サービス業 (8.4)	16.7	75.0		8.3

### 5. 経営上の問題点について

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売り上げ・受注の不振」をあげる企業が多く、全業種で29.1%を占めている。

この「売り上げ・受注の不振」を業種別にみると、建設業20.8%、製造業40.6%、卸売業27.0%、小売業32.6%、サービス業 4.5%となっている。

他に経営上の問題点をみると、建設業では「純利益の減少」20.8%、「工事価格の値下り」16.7%、「同業者間の競合」12.5%、製造業では「製品安」20.3%、「景気の見通し難」15.3%、卸売業では「純利益の減少」21.2%、「販売価格の値下り」19.2%、「流通経費の増加」13.5%、小売業では「求人難・人材難」・「純利益の減少」がそれぞれ10.9%、サービス業では「同業者の競合」45.6%、「求人難・人材難」18.2%等となっている。

来期(4月～6月)の見通し

#### 1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種でみると、今期比に「好転」とする企業41.6%に対し、「横ばい」企業52.2%、「悪化」とする企業6.2%でD Iは35.4とプラス、また前年同期比でみると「好転」とする企業35.8%に対し、「悪化」とする企業5.4%でD I 30.4とプラスを示している。

業種別にみると、今期比では建設業がD I 11.6、製造業D I 35.5、卸売業D I 40.4、小売業D I 37.8、サービス業D I 45.8と各業種ともD Iがプラスを示している。

また、前年同期比でみてもすべての業種でD Iがプラスを示し、好転を見込んでいる。

このように来期業況見通しは、今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、更に好転が予想される。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)

	(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (30.4)	35.8	58.8		5.4
建設業 (16.7)	25.0	66.7		8.3
製造業 (19.3)	25.8	67.7		6.5
卸売業 (34.0)	38.0	58.0		4.0
小売業 (43.1)	47.7	47.7		4.6
サービス業 (41.6)	45.8	50.0		4.2

#### 2. 売上額について

来期の売り上げ見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」とする企業46.0%に対し、「横ばい」企業43.4%、「減少」とする企業10.6%でD I 35.4とプラスを示し好転を予想しており、前年同期比でも「増加」企業37.4%に対し、「横ばい」企業51.8%、「減少」企業10.8%でD Iは26.6とプラスを示している。

次に、来期の売り上げ見通しを業種別にみると、

図-6 来期の売り上げ見通し (対前年同期比)

	(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (26.6)	37.4	51.8		10.8
建設業 (12.0)	32.0	48.0		20.0
製造業 (14.6)	27.3	60.0		12.7
卸売業 (29.2)	37.5	54.2		8.3
小売業 (37.2)	46.5	44.2		9.3
サービス業 (45.8)	50.0	45.8		4.2

#### 【建設業】

今期比D I 8.0、前年同期比D I 12.0といずれもD Iがプラスを示している。

細業種でみると、設備工事業がやや慎重な

次に売上額を業種別にみると、

**【建設業】**

今期の工事完成額は、前期比D I 36.0、前年同期比D I 41.7といずれもD I が大幅にプラスを示している。

細業種でみると、総合工事業、設備工事業、職別工事業の各業種ともD I はプラスを維持している。

このように今期の建設業界は、公共事業、民間建築ともに活況を持続しており、好調に推移した。

**【製造業】**

今期の生産額は、前期比△8.5、前年同期比D I 5.2と前期比では若干マイナスを示している。

細業種でみると、金属・一般機械器具業と建築関係の窯業・土石製品業は前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し業績は好転しているが、他は横ばいまたは悪化ぎみに推移しており、特に漁網業はともにD I がマイナスを示している。

**【卸売業】**

今期の売上額は、前期比では△3.9 と若干マイナスを示しているが、前年同期比ではD I 28.8とプラスを示している。

細業種でみると、燃料業は前期比、前年同期比ともにD I がマイナスを示し業績悪化を訴えているが、他は全般的に上向いており、特に医薬品・化粧品業、一般機械器具業、建築材料業は、ともにD I がプラスを示している。

**【小売業】**

今期の売上額は、前期比D I 13.7、前年同期比D I 20.0といずれもD I がプラスを示し、好転している。

細業種でみると、各業種とも比較的業績は上向いており、特に各種商品販売業と引き続き売行き好調な自動車販売業は、前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し、増収基

調で推移した。

**【サービス業】**

今期の売上額は、前期比D I 45.8、前年同期比D I 50.0を示し、いずれも過半数の企業が「増加」と回答している。

細業種でみると、ホテル・旅館業はオフシーズンにもかかわらず、連絡船・トンネルブームも手伝って好調を維持しており、その他クリーニング・理美容業、自動車整備業も前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示している。

図-3 今期の純利益（対前年同期比）

	(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (12.3)		30.5	51.3	18.2
建設業 (8.0)		24.0	60.0	16.0
製造業 (-8.5)		20.3	50.9	28.8
卸売業 (15.1)		34.0	47.1	18.9
小売業 (30.3)		41.9	46.5	11.6
サービス業 (30.5)		34.8	60.9	4.3

**3. 純利益について**

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業22.0%に対して、「横ばい」企業47.4%、「減少」している企業30.6%でD I △8.6と若干マイナスを示しているが、前年同期比では「増加」企業30.5%が「減少」企業18.2%を上回ってD I 12.3とプラスを示し、好転している。

業種別にみると、建設業の設備工事業、卸売業の医薬品・化粧品業、一般機械器具業、建築材料業、小売業の各種商品販売業、自動車販売業、サービス業のホテル・旅館業、クリーニング・理美容業が、増益基調で推移した。

**4. 資金繰りについて**

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業17.5%に対し、「悪化」した企業9.7%でD I は7.8を示しているが、「変わらない」とする企業が72.8%を占め、ほぼ前期並みに推移した。



(昭和62年度 第4・四半期)

# 景気動向調査

昭和62年度第4・四半期(昭和63年1月～3月)の函館における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	277社	70.1%
建設業	50	34	68.0
製造業	100	73	73.0
卸売業	80	64	80.0
小売業	120	74	61.7
サービス業	45	32	71.1

(注) 本調査結果の中でD Iとある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目について増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差し引いた値を示しています。

## 今期(1月～3月)の実績

### 1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種でみると前期に比べ「好転」している企業36.0%に対し、「横ばい」企業39.8%、「悪化」している企業24.2%で、D Iは11.8とプラスを示し好転している。

これを業種別にみると、建設業D I 27.0、製造業D I △19.3、卸売業D I 11.0、小売業D I 28.9、サービス業D I 45.8と製造業以外はすべてD Iがプラスを示しており、特にサービス業では過半数の企業が「好転」と回答

している。

また、今期の業況を前年同期比でみると、全業種では「好転」企業41.3%に対し、「横ばい」企業39.8%、「悪化」企業18.9%で、D Iは22.4を示し好転している。

これを業種別にみると、製造業以外はすべての業種でD Iがプラスを示し、特に建設業(D I 40.0)とサービス業(D I 47.9)が好調に推移した。

このように今期の業況は、生産活動にばらつきがみられるが、建築や観光・サービス関係は好調を維持しており、個人消費も上向く等、引き続き企業活動は活発化している。

図-1 今期の業況(対前年同期比)

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種(22.4)	41.3	39.8	18.9
建設業(40.0)	52.0	36.0	12.0
製造業(-5.0)	26.7	41.6	31.7
卸売業(26.9)	42.3	42.3	15.4
小売業(31.7)	48.8	34.1	17.1
サービス業(47.9)	52.2	43.5	4.3

### 2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種でみると、前期に比べ「増加」している企業38.0%に対し、「横ばい」企業33.2%、「減少」している企業28.8%で、D Iは9.2とプラスを示し増収傾向となった。

図-2 今期の売上額(対前年同期比)

(D. I)	増加	横ばい	減少
全業種(24.2)	42.9	38.4	18.7
建設業(41.7)	50.0	41.7	8.3
製造業(5.2)	25.9	53.4	20.7
卸売業(28.8)	50.0	28.8	21.2
小売業(20.0)	48.9	22.2	28.9
サービス業(50.0)	50.0	50.0	0.0

また、今期の売上額を前年同期比でみると、全業種では「増加」企業42.9%に対し、「横ばい」企業38.4%、「減少」企業18.7%で、D I 24.2とプラスを示している。

# 事業主の 健康管理入門



● 著者 / 社団法人産業労働研究所理事 桐木 逸朗



**(第三章)**  
継続した運動が効果を上げる  
中小企業の経営者に「健康づく  
りのために」か運動をしていれば  
教えるべきか」と問いかけてみ  
ると6割の人たちは「とくにない  
と答えています。また「運動をし  
ては「ゴルフ」をあげています。  
数は「ゴルフ」をあげています。  
（昭和53年10月 全国商工会連合  
会・商工会議所共同調査）つまり  
この結果をみる限り、経営者の大

部分は運動に関心がないか、あつても毎日継続して行なうように運  
動はしていかないことがわかります  
そしてこの傾向は年齢が高くなる  
ほどひどくなっています。  
ところが今日よく「栄養と休養  
が充分でも運動が不足するとから  
だをこわす」ということを耳にし  
ますし、運動の必要性が強く叫ば  
れていますが、そのわけを考えて  
みましょう。もともと人間は日常  
生活のなかで全く動かさずか  
ないという事はないはずですが  
仕事や家事、遊び、運動などを  
通してごく自然に意識しないまま  
「運動」をして自然に蓄積し、そ  
れにもかわらず「運動の必要性」  
が強調されるのは、日常生活のな  
かでバランスのとれた運動の機会  
が減少し、また食事の摂取量に  
らべて運動量が少なすぎるとい  
う状況にあるからだといえましょ  
う。前者は時には部分的に運動し  
てそのために疲労が蓄積し、か  
えてからだをこわすという危険  
性があります。キーパンチャーや  
タイピストの腕の障害などその例  
で、このような場合は疲労のため筋  
肉に適切な刺激を与える（あんま  
や指圧など）ことも必要になつて  
きます。そしてこのような部分疲  
労の蓄積条件が今日の日常生活の  
なかにも多くなつてきています。こ  
うな場合、一方

では殆んど使われていない部分も  
相当あるので、ふだんあまり日常  
生活のなかで行なうことによつ  
て、からだ全体の運動のバランス  
をとるよう心がけることが大切  
です。机に向かつてすわったまま  
モノをみたり書いたりする仕事  
中心のときは、ときどき立ち上  
つて後にそりかえってみるとか、遠  
くの方を眺めて目の疲労をいや  
すとか、といったことをしてほし  
いものです。  
しかし多くの経営者にとつて、  
もつとも不足しているのは、日常  
継続的に全身運動を意識して行  
なうということなのです。とくに  
高年からはより一層全身運動に  
心がかない若いう頃にくらべて日  
常生活がもともと活動的でなくな  
ります。ですから、運動量が不足  
してふとりにすぎ、という状況が  
出てきます。もちろん栄養と運動  
との関係は人によって差があり  
ます。また「食べても肥らない」  
という体質の人にもいます。また  
「あまり食べないのにすぐ肥る」  
という人もいます。しかし中高年  
になると、運動不足のため肥る  
経営者の方が多いのです。中年  
から「お腹が出てくる」状態はま  
さにその象徴的なことといつてよ  
いでしょう。  
よくやせるために食事を減らす  
という人がいますが、それもほど  
ほどにしなないと栄養のバランス  
がくずれてしまいます。むしろ食  
事を極端にきりつめることより  
も、適度に食事をとって全身運  
動を毎日継続的に行ない、カロ  
リーをうんと消費する方が効果  
的なのです。そのためには運動は  
ゴルフのよう

## 大衆温泉浴場

# 日乃出湯

湯川植物園向い TEL 57-8692